

小児生活習慣病予防に関する取組み

(1) 目的

市町等が実施する小学校 4 年生及び中学校 1 年生を対象とした小児生活習慣病予防健診に対して助成を行い、その結果を分析し、小児生活習慣病の予防対策を行うことにより、子どものあるところからの生活習慣・食習慣の改善を推進するとともに、家族ぐるみの生活習慣改善の実践を促す。

(2) 背景

平成 20 年糖尿病受療率（全国 1 位）、平成 22 年糖尿病死亡率（全国 5 位）、平成 23 年県民健康・栄養調査等の結果を踏まえ、子どものあるところから望ましい生活習慣を身に付け、将来の生活習慣病発症を予防するために、平成 24 年から小学校 4 年生を対象とした小児生活習慣病予防健診の補助事業を開始。

また、小児生活習慣病予防健診後の実態を把握するとともに、将来にわたって質の高い健康を維持していくための対策を推進するために、令和元年度から中学校 1 年生を対象に加えた。

(3) 小児生活習慣病予防健診の補助事業の概要

- ①実施主体：県内 17 市町及び国立大学法人
- ②対象：小学校 4 年生及び中学校 1 年生
- ③調査項目：身長、体重
血液検査（糖代謝、脂質、肝機能の 8 項目）
生活習慣調査（食事、運動、睡眠、家族歴）

令和 5 年度の実施状況

<小学校 4 年生>

17 市町及び香川大学

<中学校 1 年生>

14 市町及び香川大学

(4) 現状・課題（令和 5 年度の結果）

◆小学校 4 年生

○検査結果（ ）は令和 4 年度数値

- ・肥満傾向 男子 15.8%、女子 11.6%（男子 14.7%、女子 10.5%）、
- ・痩身傾向 男子 2.4%、女子 2.1%（男子 1.5%、女子 1.9%）
- ・脂質異常 男子 10.3%、女子 11.7%（男子 11.4%、女子 10.0%）
- ・脂肪肝 男子 4.4%、女子 2.3%（男子 4.4%、女子 2.2%）

○過去 5 年間で増加傾向にある生活習慣

食事（食事満腹度、夕食後の間食、食事で気を付けていること 2 項目以下、孤食）

運動（徒歩による通学時間が少ない、情報メディア等の利用時間）

○男女共に肥満と強い関係を認めた生活習慣

食事（朝食欠食、食べるはやさ、食事満腹度、野菜の摂取、果物の摂取）

運動（情報メディア等の利用時間）

◆中学校 1 年生※

○検査結果（ ）は令和 4 年度数値

- ・肥満傾向 男子 12.7%、女子 9.3%（男子 11.9%、女子 11.3%）、
- ・痩身傾向 男子 3.0%、女子 4.4%（男子 3.0%、女子 3.7%）
- ・脂質異常 男子 9.4%、女子 9.9%（男子 7.5%、女子 10.1%）
- ・脂肪肝 男子 6.5%、女子 1.9%（男子 6.8%、女子 2.0%）

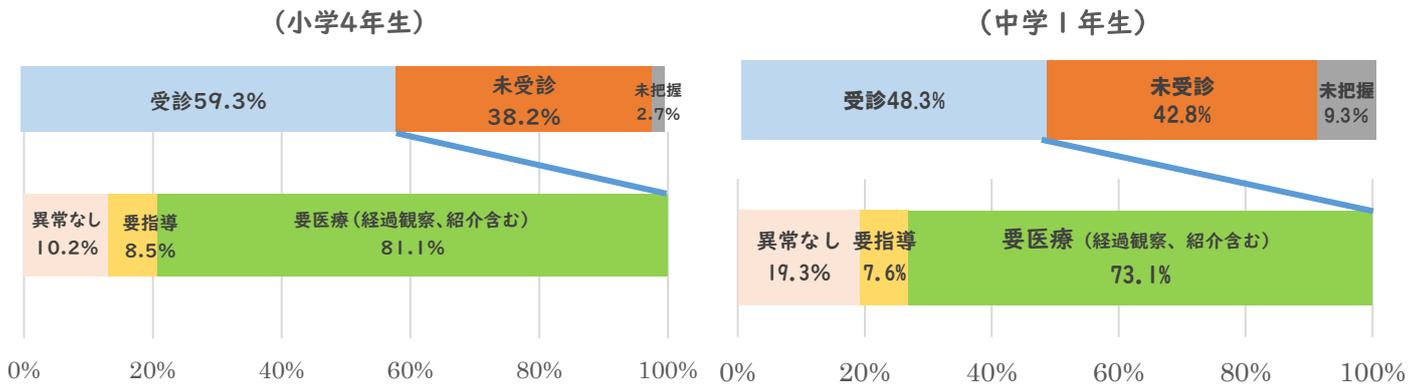
○過去 5 年間で増加傾向にある生活習慣

食事（朝食欠食、孤食）

運動（情報メディア等の利用時間）

※中学校 1 年生の健診は、受診した生徒が全体の 4 割程度であったため、健診結果は香川県全体を示すものではない。

(5) 令和5年度小児生活習慣病予防健診二次検診受診結果



*二次検診結果の約7~8割が要医療で、医療的介入の必要性が高い児童が多い理由は、報告をいただいている5月末時点では、複数回受診しているケースは少なく、1回目の受診ですぐに「異常なし」「要指導」となることは少ないためと考える。

(6) 令和6年度取組み

○香川県小児生活習慣病対策検討会

開催日：令和6年9月13日

内容：小児生活習慣病予防健診結果、フォローアップ、精度管理、課題と対策の方向性等について協議

○小児生活習慣病対策担当者連絡会

開催日：令和6年11月26日

内容：上記検討会の協議内容を踏まえて、健診やフォローアップの調整など小児生活習慣病対策等について情報共有や意見交換

○各保健所管内における小児生活習慣病対策

研修会やワーキングを通して管内の関係者のスキルアップを図ったり、授業参観で出前講座を行ったり、作成した啓発媒体を管内の園児や小学生への配布だけでなく、幼稚園、保育所、こども園、小中学校等で実施する小児生活習慣病予防のための保護者研修会、健康相談会等の際に配布し、保護者にも生活習慣改善の気付きを促す取組みを実施。

(7) 今後の方向性

今回の健診結果について、小学4年生については肥満の割合は増加傾向が続いており、この10年で最も高い値となっていたり、肝機能が基準値を超えた者や脂肪肝のリスクのある者もこの10年でも高い値となっており、生活習慣病リスクが高まっていることを示唆する所見であった。また、情報メディアの利用時間が2時間以上の割合も増加していた。今回の健診は新型コロナウイルス感染症の5類移行後はじめての健診となったが、本県の子どもの生活習慣病の発症リスクは引き続き増悪傾向にあった。この健診を通して、食事や間食の摂取量や情報メディア等の利用の仕方、睡眠を含む生活リズムなどについて、教育機関と医療機関と行政機関が連携して対策をより一層強化していく必要がある。